第2回検証・改善

7月31日（木）実施

確認・検証・改善【　　2回目】

取組指標に対する **取組状況の確認**		達成指標に対する **達成状況の確認**		達成指標・取組指標の妥当性を **検証**	**改善方法**
実施率	取組状況（エビデンス）	達成率	達成状況（エビデンス）		
100% 100% 80%	●単元に1回以上自分の考えを発表させる機会を確保→6/6 ●教師・生徒同士のフィードバック→6/ 6 ●授業と一体化→5/ 5 （習熟度に応じた宿題）→4/ 5		●「自分の考えは根拠や理由と一緒に伝えようとしている」に対し肯定的に答えた生徒の割合は96.8% ●「自己調整能力の向上を意識し、計画性をもって家庭学習等に取り組んでいる」	●達成指標「授業では根拠や理由を明確にして相手に伝わるよう表現することができる」では自分で確信することが難しいため1学期末アンケートの質問を**「自分の考えを述べる時は根拠や理由と一緒に伝えようとしている」**にして検証した。 ●「生徒は自己調整能力の向上を意識し、計画性をもって家庭学習等に取り組んでいる」という質問に対するアンケートはとっていない。「国語の単元テストに向けてテスト勉強にしっかり取り組んだ」に対し肯定的に答えた生徒の割合は96.6%	**●「授業では根拠や理由を明確にして相手に伝わるよう表現することができる」を「自分の考えを述べる時は根拠や理由と一緒に伝えようとしている」にしては** **●達成指標の二つ目「自己調整能力の向上を意識し、計画性をもって家庭学習等に取り組んでいる」を「単元テストや期末テストに向けて自分で計画を立て、調整しながら家庭学習に取り組んでいる」にしては。**
	ＣＳ　で検証予定		ＣＳ　で検証予定	ＣＳ　で検証予定	ＣＳ　で検証・改善予定
100	全員参加	100	現状を維持する	現状を維持する	継　続
100% 100%	○ロイロノートや授業プリントを使い可視化した。 ○タブレットやプリントを使い考えをまとめ、グループ討議等を通して伝える活動を実施した。	100.90%	○期末テストの記述問題の平均正答率は**54.7%**であった。**[国語61.9 社会57.8 数学44.4　理科64.4 英語44.9]**	○各教科ごとに記述問題の量や質について検討を行ったったため、**期末テストでは無解答の割合が少なく**なり正答率が改善できた。	○今後は、記述問題の正答率の向上が学力検査等での**「活用力」に反映**できるよう**「まとめ」や「振り返り」の方法について研究する**必要がある。
100%	○各学級で継続して共感を高めるプログラムを実施。	100%	○生徒集会で「人間関係プログラム」を実施した。	○生徒アンケートでは、「自分の考えを相手に伝えようとし努力ている」生徒の割合は**75%**であった。	○**自己有用感の低い生徒への支援**が必要
100%	○定期テストの計画・反省に保護者からのコメント記入欄を入れた。	95%	○ほとんどの保護者が、計画反省欄に励ましのコメントを記入してくれている。	○ほとんどの家庭では、テストや検査結果を生徒と保護者が共有できアドバイス等を書くことができている。	○今後も継続して取り組むと同時に協力できていない保護者への啓発の対策が必要。
100	○生徒自らが創る授業を意識した活動として、小集団活動やペア活動を取り入れた授業実践。 ○生徒指導の3機能が担保された授業の推進。	83.9	○生徒調査3項目による肯定的回答は達成指標の80%を超えているが、第１回検証と比較して1.5%低下している。	○生徒調査の「あなたは、授業で活躍できたり、充実していると思いますか。」の肯定的回答は第１回検証から6.2%向上し**78.1%**であったが、「自分の将来の夢や目標に向けて学校生活を送っていますか。」の肯定的回答は第１回検証と比較して、12.5%低下し**75.0%**の結果となっている。	**○生徒を主体とした授業実践や生徒が活躍できたり充実していると感じたりできる取組が行われている。「将来の夢や目標が持てるような取組」**を授業や学校生活全般で行う必要がある。（例えば、キャリア教育・進路学習など）
100	○短学活時にお互いの自己有用感が持てる取り組みの実践	100	○３学年とも朝の会や帰りの会で自己有用感を持てる取り組みを行っている。	○生徒調査の「友だちや集団のために役に立ちたいと思いますか。」肯定的回答は**100%**であり、友達の役に立っている、または役に立つことが好き・褒められると嬉しいなど、自己有用感が高められている。	**○朝の会や帰りの会で自己有用感を持てる取組ができている**ので、短学活時だけに限らず、**学級活動全体を通して**自己有用感を持てる取組にしてはどうかと思う。
期末で検証	○学期に１回以上授業参観を実施し、アンケート等で授業評価をする。		○参観率33％であった。肯定的評価100％であった。	○1学期末授業参観が「救急救命講習」で保護者にも有益だったことから肯定的評価が**100%**だった。	○各家庭の各種事情もあり参観率を高めることは難しい。しかし保護者にも有益な参観内容にすることは今後も大切であると考える。
検証中	8月　学校運営協議会で検証予定	検証中	8月　学校運営協議会で検証予定	検証中	検証中

【総括】

《成果》

○多くの生徒が自分の考えを伝えようという意欲があり、その際に根拠をあげて伝えようとしていることから、自分の考えを言語化し、発信する力が高まってきている。

《課題》

△単元テスト、定期考査等の記述問題の平均正答率については、単元の内容や回数、難易度や採点基準等の要素が教科によって曖昧であり、生徒の力を把握する指標としては妥当ではない。

《改善策》

※単元テスト、定期考査等の記述問題の平均正答率ではなく、単元ごとの「ふりかえり」における記述（口頭も可）において、習得語彙を活用し、自分の考えを言語化できている生徒の割合を検証しては。

様式2

令和６年度　学校評価の４点セット

２学期

日田市 立　　東渓中 学校

８月２５日版

【学校の教育目標】　自ら考え判断し、協働的に行動する生徒の育成　～　自尊感情の醸成　～

【育成を目指す資質・能力】　言語能力

キーワード
言語化

重点目標	評価	達成指標	チーム	上半期達成率		重点的取組	取組指標	実施率	１学期の成果・課題
教科等で必要な語句・表現の習得 【知識及び技能の習得　生きて働く】		○「自分の考えを述べる時は根拠や理由と一緒に伝えようとしている」生徒の完全肯定率６０％以上 １学期実績 肯定率93.7% ○「単元テストや期末テストに向けて自分で計画を立て、調整しながら家庭学習に取り組んでいる」生徒の 完全肯定率６０％以上 １学期実績 肯定率96.6%	○木下 山崎	100% 正し後半期は完全達成率へ移行予定	学校	○ 授業において、単元ごとの「ふりかえり」における記述（口頭も可）において、習得語彙を活用し、生徒自身の自分の考えを言語化させる ○ 各教科の単元構想の中に、習熟度に応じた宿題の位置づけを行う。	○ 教師は、生徒が各単元での習得語彙を活用し、言語化できている「ふりかえり」の記述（口頭も可）を複数会実施する ○ 教師は、宿題の進捗状況を確認し、授業と一体化の宿題の在り方の好事例を単元に１回以上、生徒に示し教師間で共有する		●「授業では根拠や理由を明確にして相手に伝わるよう表現することができる」を「自分の考えを述べる時は根拠や理由と一緒に伝えようとしている」にしては ●達成指標の二つ目「自己調整能力の向上を意識し、計画性をもって家庭学習等に取り組んでいる」を「単元テストや期末テストに向けて自分で計画を立て、調整しながら家庭学習に取り組んでいる」にしては。
					家庭	○ 基本的生活習慣の確立 ・子どもの自己調整能力の確立に向け、学校と協働する（CSで再提案）	○ 保護者は、フォームによるアンケート調査で宿題の進捗状況を学校と共有し、善後策を学校と協議する		
					地域	○ 水曜塾の更なる活性化	○ 担当による希望生徒への学習支援状況を全職員で共有する		
習得語彙を活用し、自分の考えを言語化し発信する力の育成 【思考力、判断力、表現力等の育成　未知の状況にも対応できる】		○ 単元テスト、定期考査等の記述問題の平均正答率６割以上の生徒が５０％以上　（継続） 平均正答率６０％以上の生徒 １学期実績 ［国語61.9　社会57.8 数学44.4　理科64.4 英語44.9］　平均54.7% ○ 日常の活動、授業等で自ら意見を言おうとする生徒完全肯定率６０％以上（上方修正） １学期実績 肯定率75%	○衛藤豪 椋野	100%	学校	○ ○授業において、単元ごとの「ふりかえり」における記述（口頭も可）において、習得語彙を活用し、生徒自身が自分の考えを言語化したものを、内容の適切さ（目的、場面、状況）を評価する ○ 人間関係づくりプログラムの推進	○ 教師は、生徒が各単元での習得語彙を活用し、言語化できている「ふりかえり」の記述（口頭も可）を複数会実施したうえで、 単元に1回以上記述や口述の内容を評価し、生徒に即時フィードバックする。 キーワード 言語化 ○ 担任は、短学活で週１回以上共感力を高めるプログラムに取り組む		○今後は、記述問題の正答率の向上が学力検査等での「活用力」に反映できるよう「まとめ」や「振り返り」の方法について研究する必要がある。 ◇自己有用感の低い生徒への支援が必要 ◇今後も継続して取り組むと同時に協力できていない保護者への啓発の対策が必要。
					家庭	○ （再掲） 基本的生活習慣の確立 ・子どもの自己調整能力の確立に向け、学校と協働する（CSで再提案）	○ 保護者は、テスト計画や反省等を子供と話し合い激励の言葉やアドバイスを記入する （フォームの活用）		
					地域				
多様な意見や考えを受け止め、よりよく生きようとする生徒の涵養 【学びに向かう力、人間性等の涵養　学びを人生や社会に生かそうとする】		○ 以下の調査内容（学期スパン）肯定率（４段階評価において３以上）を８０％以上にする（継続） １学期実績 肯定率75% 【生徒調査】 ①授業で活躍できたり、充実したりしていると思うか ②自分の将来の夢や目標に向けて学校生活を送っているか ③友だちや集団のために役に立ちたいと思うか 【保護者調査】 ①子どもは、学校の生活が充実していると思うか	○江藤孝司 光田	92%	学校	○ キャリア教育の視点を意識し、生徒指導の３機能が担保された「生徒相互で創る授業」の積極的な推進 ○ 教師は、生徒同士に自己有用感を持たせることを。全教科、全領域で意識する	○ 授業改善の推進 ・生徒自らが創る授業を意識した活動を活用する（学期に数回程度、適時的実施） ※小集団活動、フォーム等による即時フィードバック （発展的継続） ・生徒は、短学活等でお互いの自己有用感について週に１回以上意見交換を行う		○生徒を主体とした授業実践や生徒が活躍できたり充実していると感じたりできる取組が行われている。 ◇授業、学校生活全般での更なる「将来の夢や目標が持てるような取組」を授業の推進（例えば、キャリア教育・進路学習など） ○朝の会や帰りの会で自己有用感を持てる取組ができている。 ◇短学活時だけに限らず、学級活動全体を通して自己有用感を持てる取組実施 ▲各家庭の各種事情もあり参観率を高めること ◇保護者にも有益な参観内容へ向けた工夫の更なる継続
					家庭	○ 授業参観の取り組み	○ 保護者は、学期に１回以上授業参観を行いアンケート等で授業評価をする		
					地域	○ 学校運営協議会を中心とした地域連携の推進	○ 地域は、学期に１回以上授業参観（行事含む）を積極的に行い授業評価をする ○ 運営協議会は年１回以上生徒が表現活動できる場を提供す		
ライフワークバランスを目指した意識改革 【働き方改革の推進】		○【主体的な働き方改革の推進】 年次有給休暇行使率の向上　１学期（4-7月） 実績 達成率　▲50% ○計画年休取得率５０％以上	○教頭 校長	50%	学校	○ 計画年休の実施の強化	○ 行事等の年間計画、期間等の見直しをしながら、１か月前の提案を推進する		▲2.2日/1人 達成率　約50% ⇒更なる計画年休推進
					家庭	○ 家庭教育の充実による学校支援体制の確立	○ ＳＮＳ等の利用やそれに伴う生活習慣の改善に努め、ＰＴＡ主催の講演会等に参加する		◇保護者の協働強化 保護者アンケート実施推進、啓発推進
					地域	○ 地域活動と連携した学校支援体制の充実	○ 休日の生徒ボランティア活動への引率等の在り方について協議を進める		◇CS小中1本化の検討